

令和7年度 会員研修会 「片岡啓子先生のレッスン」②

2025.5.3 (土)

雀宮生涯学習センターホール



レッスン中の片岡先生



休憩中にも親身に相談にのってくださる先生

片岡啓子先生をお招きしての第2回会員研修会の紹介です。

前回に引き続いて、6月の宇都宮市民芸術祭公演（オペラの祭典Ⅳ「イタリアオペラの巨匠ヴェルディの世界」）で演奏するアリアや歌曲をレッスンしていただきました。同じ曲の2回目のレッスンということで、我々受講生にとっても、内容的に一段と深い学びの機会となりました。

それにしても、レッスン中に先生が仰る一言一言の何と含蓄のあることでしょう！一体先生は表現の引き出しをどれ程お持ちなのか計り知れません。そして、その全てが、先生が世界で経験なさってきた事が土台となっているので、言葉の重みが違います。その上、お疲れにも関わらず、私達を少しでも向上させようと時間も忘れて教えてくださる情熱。このような素晴らしい先生に教えて頂けて、私達は本当に幸せです。

改めて、6月の公演は何としても成功させなければいけないという思いを強くしました。

最後に、私が強く印象に残ってメモした先生のお言葉をいくつかご紹介します。

○「あなたは、ここをどう歌いたいの？」

先生は常に私達にこう問いかけます。決して「こう歌いなさい！」と押しつけません。私達に考えさせて、その上でアドバイスしてくださいます。

○「高音を歌うときは石臼のように！」

下半身の支えを石臼に例えて表現されています。私は、「重心を低く」と理解しました。

○「地球の重力を感じて歌いなさい。歌っていて足が痛くなったら正解！」

この後、「宇宙ではきっと歌えないのかしら？誰か宇宙飛行士になって実験して。」と仰って、一同爆笑。一瞬で場が和みました。

○「力が無い人は、逆に爪先立ちで歌うと良いの。」

爪先立ちによって逆に重力を感じ取れるということでしょうか。なるほど何をするにも「地に足を着ける」ことが大事なのですね。納得。